

今日のわだい

- [1面] 医療研シンポから
大戸診療所20年に学ぶ
- [2面] 医療研集会分科会より
- [3面] 新春インタビュー

全厚労ニュース

全国労働組合連合会
厚生連

〒110- 東京都台東区入谷
0013 1-9-5
TEL 03-3874-3591
FAX 03-3874-3593
発行日 毎月20日 定価 30円
http://www.zenkouro.org/

地域のために、住民とともに 大戸診療所の20年に学ぶ



地域の子どもたちも、楽しくダンスを披露（今年の健康まつり）

11月に群馬・磯部温泉で開催された医療研究集会では、地元群馬県にある住民立の診療所「大戸診療所」の20年の歴史に学ぶシンポジウムを行いました。「医療は住民のもの」「住民とともに健康づくりをすすめる」という診療所の理念を、その実践から学べるものになりました。

住民立診療所

かつて群馬県には国立の療養所「長寿園」が存在し、地域の医療機関としても機能してきましたが、中曽根行革の一環として、地元の診療所を狙い撃ちに統廃合のやり玉に挙げられました。1984年から足かけ7年に渡る住民と労働組合共同の運動は大きく盛り上がり、廃止は止められなかったものの、当時の厚生省も「診療所を作る」と言わざるを得なくなり、一旦はアリバイ的に診療所が作られました。

した。

今野さんは、「アリバイ診療所は出来たけれども、ひと月後にはかならずなくなるだろう。住民のみなさんがこれまで一緒に頑張ってきたけれど、去っていくのには、申し訳ない気持ちがあった。診療所建設に失敗したらどうしようとは思いますが、考えてもみたくない。腹をくくって、やるだけやってやろうというのが出発点」と当時の思いを語られました。その後、住民自ら5千万円以上を出資、「友の会」づくりも進め、許可に向けては様々な例外も打ち破り、94年の開設へとこぎつけました。当時、労働組合として廃止反対闘争を担ってきた今野さんは、診療所の事務長となり、そして現在は常務理事を務められています。

住民と賛同した 医師らが支える

開設後の数年間は、患者も増え経営も安定していましたが、町の最盛期からは半分以上に人口が減って、今では3千人を下回っています。

医師は当初は国立病院等から、3年目からは長野県厚生連の佐久・小諸病院からの医師派遣も始まり、今は佐久総合病院の医師が毎週火曜日に派遣してもらっています。大



大戸診療所の活動を支える5人の皆さん

訪れたことのないところなどを散策するように「寄り道」することが、診療所としても推奨されています。

大戸診療所に つとめて12年、運転手を務める浦野さんは、「以前は郵便局等で働き、坂上地域に50年くらい住んでいて、住民とずっと関わってきた。浦野さんだから安心できる、なんでも頼める、という声を聞くことができると嬉しい。いつか恩返しできたらいいなと心から思ってきた。年齢もあるので、いつまで貢献できるかわからないが、そのうちに良い患者になりたい」と語りました。

大戸診療所・地域のこれから

診療所設立20年を過ぎて、診療所を支える次の世代をつくるのが課題です。「診療所の職員でも長い人で12年程度になり、長寿園闘争も知らない。今回20年史を作ったのは今の職員に見てもらいたいから。診療所の理念を引き継いでいってほしい」と今野さん。

一方で、人口減や中学校の閉鎖など、地域が疲弊している中で、人が呼べる地域、住める地域にしていきたい。3年前に「地域づくり懇談会」を立ち上げて、これからの地域をどうしていくか話し合われています。「たくさんやって一つ当たれば良いから、やれることはやってみよう、という姿勢でやっている」と話されました。

例えば地域のお寺の境内に、最後まで元気で命をまっとうしたい、という思いで「長寿地藏」「別名「ピンコロ地蔵」を作ったとのこと。近くには温泉があり、散策時はお参りできる。最初は1年に2万くらいのお賽銭だったものが、いま月

楽しみにされている 患者送迎

診療は予約制で、患者送迎用の車を12台用意。運転専任者だけでなく、時には他のスタッフも運転しています。患者の送迎中には、長い間に培われた信頼関係で、車の中でおしゃべりはもちろん、診療所から家までの往復ではなく、時には同じ町内にも

「友の会」は98年には千人を超えて、世帯では地域の90%が診療所を支えています。

子や孫に2回会える 健康まつり

8月下旬に行われる「健康祭り」は病院開設時からすでに20回が行われました。97年の第3回からは、7年間中断していた地区の花火大会を行うようになりました。祭りは住民による実行委員と職員の共催で、行政に頼らず一口5千円の「花火協賛金」を集めて運営されています。

子や孫、親戚などが楽しみにしていて、お盆と合わせて「8月は2回、子や孫たちと会える」と、なくてはならないものになっています。健康祭りでは、診療所を良く知ってもらうために、大戸診療所

2万が集まるようになって、集まったお賽銭はお祭りの予算になっているそうです。さらに行政も絡めて、「地域活性化協議会」も作られています。あの「ハッ場ダム」が完成すると、道が変わり人の動きも変わってしまうため、診療所から200m程離れたところに、調剤薬局と日常雑貨などを売るところを計画しています。また中学校跡地には、他の法人と相談して、高齢者施設づくりも提案されているそうです。

「運動体」としての 診療所

コーディネーターの鈴木さんは、「大戸診療所は経営体としてみるのではなく、社会に働きかけていく運動体でみることが必要。長寿園はつぶれたけれども、医療を国民の手に取り戻す運動だった。誰のためになにをするのか、考える上でのきっかけになったのではないかとシンポをまとめました。」

西日本土砂災害カンパ

総額 127万3128円
(広厚労直接分を含む)

8～9月の広島等、西日本広域での土砂災害に対し、全国へ呼びかけたカンパは上記の額が集まりました。日本医労連を通じて被災地へのカンパを行いました。ご協力された組合員のみなさん、本当にありがとうございました。

「誰のために、何をするのか」を考える視点に

第31回医療研集会 各分科会レポート

11月に開催された医療研集会から各分科会の様子を報告します。

患者さんの「足」を みんなで考える

第1分科会

歩く体験会」として、かづの地域の住民運動が報告されました。



第1分科会は、大戸診療所の今野さんを含む総勢18名で行いました。

最初に「自分メモ」を記入し、自己紹介。今野さんは、「この会は夢を語る会だ」「周りから地域(病院)をみる事が大切」と最初にコメント。

運営委員の湯瀬さんが問題提起を行い、特に今回は「地域の交通手段」について学び、交流する趣旨が語られました。

レポートでは、秋厚労の片岡さんから『集落からバス停までの道のりを

意見交換では、今後、高齢化と人口減少により公共交通機関の縮小、廃止が増えることが予想されるため、車が運転できなくても自由に移動ができる社会づくりをしていかなければならないことが共通認識となりました。

また医療福祉を考える上で大切なことは、地域全体を見て誰がどのようなことで困っているのかを調べ、知り、みんなに知らせることではないかと思えます。

また長野の『佐久地域医療懇談会』の取り組みもレポートされました。川西赤十字病院の経営不振の問題をきっかけに、地域で話し合うことで改善しようとする。これが患者さんの意見を聞く機会を作ることになり、職員(病院なくても良い)と患者(病院無いと困る)との意見に相違がある

ることを知るきっかけになったとのこと。結果、市が動くことになり、赤字を負担することになりました。後に会の名称も住民主体に運営され、「川

話し合いの場を持って、笑顔でいられる環境に

第2分科会

第2分科会は10県30名が参加しました。「働く者どうしのわかり合い」をテーマにするこの分科会では、お互いの意見・考えを聞き伝えあい、解決のためのヒントや自分に求められているものを探ることを目標に運営しました。



西健康いどばた会議」と住民が参加しやすいものとなったそうです。

参加者からは「医療研を通じて労働組合が何をしたいか良いのかを考えていきたい」「何事も変えていくためには人と人とのつながりが大切だと思った」「たたかい続ける、運動し続けることが大切だと思った」などの感想が出されました。

最初「医療・社会保障制度の動向と診療報酬改定の影響」についてミニ学習を行い、政府の考える社会保障の「自助」「共助」への流れや病床機能再編により、医療から介護・在宅への流れに向かっていることを学びました。

実践レポートとして、秋厚労の島さんより、4年間をかけて取り組んでいる職場訪問・懇談活動について報告。今年までの2年間で66職場、延べ700名の参加で、各種の問題を拾い上げてきました。活動を通じて患者・地域のために頑張っている人がたくさんいることが確認できたこと、支部・職場の仲間など「みんな」で組織的に取

り組むことが重要であるということ、一人で事を成し得ることは無理で、支えてくれる人がいるからこそ乗り切れる、ということが現場まで足を運ぶことで見えてきたという報告がなされました。

2つ目には茨厚労の菅野さんより、「笑顔で働き続けたい」を目標にアンケート調査と、年代別に「スマイル集会」企画を行って見えてきたものを報告してもらいました。

新人・20代、ママさん看護師、中堅・ベテラン世代、男性看護師の各々特有の悩みや共通の悩みが見えてきました。

6人程度でグループワークを行いました。特に共通の問題になったのは職場のコミュニケーション不足で、このことを改善するだけでも大きく職場が変わること、「雑談ができるような職場の仕組み」をつくること、笑顔が増えること、笑顔になり症状も良くなる、そういう病院に明るくしていくとみんなが働きやすくなるのでは、などの意見が交流されました。

話し合いの場があることで相手の話を聞き、自分の思いも話せ、その結果新しいものの考え方や違った見方ができ、参加者全員が新たな活力を得ることが出来たと思います。

秋厚労 田宮久史

初対面同士で「この物を作り上げて

第3分科会

第3分科会は「病院を地域にひらく」をテーマに、コンセプトとして病院を地域に開く取り組みや病院から地域に足を運ぶ取り組みなどを報告し、討論を行いました。8県21名の参加者で分科会を進めて行きました。

レポート報告では三厚労鈴鹿支部による「病院祭での新しい取り組み」として25回目の病院祭での活動報告と外部関係者との関係性の持ち方や依頼の方法などを報告し、意見等を活発的に出し合いました。

また茨厚労から「とりで総合医療センター」の院内保育所の民主化運動について

じました。

この分科会は初めての参加者の方でも、比較に入りやすい分科会になるように心がけています。ぜひ来年の第3分科会に参加して下さい。

三厚労 岡野元保

ついて」と医療研運営委員長から「長野川西地区いどばた会議と栃木の住民運動の交流」を報告してもらいました。

レポート報告終了後は第3分科会のメインでもある寸劇「水戸黄門道中記」の練習。この寸劇は2日目の夕食交流会で披露し、他分科会の参加者から温かい拍手を頂くことが出来ました。初めて会う人が1つの劇を作るという目標に向かって力を合わせ、達成感を得るとい分科会での目標も達成できたのではないかと感じた。



お金じゃない「豊かさ」の物差しで考える

第4分科会

第4分科会では9県28名が参加して、「食と環境を自分たちの手に取り戻すために」何が出来るのか、をテーマに学習と討論を行いました。最初にNHKで放映された里山資本主義のドキュメンタリー(NHKのホームページでも見られます)を視聴しました。さらに実践報告として「佐

久総合医療センター「いきいきの森」の取り組み、秋厚労「直営の病院給食を守る運動について」の活動報告を受け、ディスカッションを重ね学び合いました。

金銭的な物差しを変え、金銭的でない物差しで考えることで、「生きていく上で何が大切なのか」を見つめ直し、「豊かさ」の意識が変わった2日間となりました。夕食交流会では、学んだ内容を替え歌にして披露し、楽しく過ごしました。

茨厚労 安本真理子



に実践報告として「佐

◆新春インタビュー◆

「アベノミクス」は日本を壊す 成長率より分配の追求を

同志社大学大学院教授 浜 矩子さん



つ走り型経済の夢を
いまだに描いている。
海外でモノをつくり、
海外で売っている時
代に輸出が伸びると
考えるなんて、もう
ぼうぜん、あぜんで
すよ。

Profile はま・のりこ

1952年生まれ。一橋大学卒業後、三菱総合研究所の経済調査部長などを経て、2002年から同志社大学大学院ビジネス研究科教授。専門はマクロ経済分析、国際経済。主な著書に『「アベノミクス」の真相』（中経出版）、『新・国富論』（文春新書）、最新刊『2015年日本経済 景気大失速の年になる!』（東洋経済新報社、高橋兼宣氏との共著）などがある。世界最大の人権擁護団体アムネスティ・インターナショナルの活動にも参加している。

私は、アホノミクス、さらにアホノミクスと批判してきましたが、実は彼らには別の下心があると感じるようになりまし。これは強兵のための富国政策なのではないか」ということです。軍事的に強い日本をつくる、そのための国会多数派を維持するには強い経済が必要だ、という思考です。本気でデフレ脱却を考えていない。

強い者はより強く、弱い者は切り捨てる、あるいは存在さえ認めないというのが、この政策の本質です。

加えて円安の進行に歯止めがかからなくなれば、国債暴落もあり得ます。もう「景気が大失速する」なんていうレベルでは済まなくなるのです。

●時代遅れの経済学

そもそも安倍首相らの経済政策は時代錯誤。円安にして大企業の輸出を増やすという、高度成長時代の突

お友達の黒田日銀総裁らは昨年、異次元の金融緩和策を追加しました。株高と

このままいくと2015年はどうなるか。

●国債大暴落の危険も

「アベノミクス」で格差を拡大し、貧困が広がる。アベノミクスで格差を拡大し、貧困が広がる。

「景気大失速する」なんていうレベルでは済まなくなるのです。

●経済に人間性の回復を

「豊かさの中の貧困」に向き合うためのキーワードは「分配」です。富の偏在を是正し、弱者を含めて多くの人が経済活動に参加できる、そんな政策こそが必要だ。

経済は人々の営みにほかなりません。人間を不幸にする経済活動は、もはや経

経済活動とは呼べない。そこを基準にものごとを考えていくべきです。経済といっても、人間性や倫理の問題を切り離してはいけない。賃金や非正規労働の問題

も同じ。生存権や人権の観点から考え、要求していくべきです。労働運動は人権運動そのもの。そうしたスタンスでの迫力ある取り組みを期待します。

支えあう日本の誇り

精神科医 香山リカさん



歴史の経過を説明しても受けつけない。このように信じたい情報ばかりを集めて訂正が不可能になる状態を、心理学用語で「確認バイアス」と呼びます。

支えあう「包摂社会」がそこにはありました。敗者に手を差し伸べる「判官びいき」という独特の心情もあつたはずだ。

先日、作家の百田尚樹氏がツイッターで、ある野党がエボラ出血熱対策の国会審議を妨害していると発信しました。明白な事実誤認で本人もその野党のアカウ

特に「保守」を自認する政治家に言いたい。本当に日本の良さに誇りを持って

ネットの世界に限った話ではありません。本屋に行けば「嫌中」「嫌韓」本が平積みされています。確認バイアスは日本社会全体にまん延しているのではないのでしょうか。

私の診療室には過労やパワハラでうつ病にかかった患者さんが多く訪れます。その際必ず「職場に組合はありますか」と聞いています。ない場合は孤立無援で大変ですが、「ある」という人は組合が「最後のよすが」になっているところが

「アベノミクス」なんて最初から怪しげだなど感じていました。最近、やっとその危なさにみんなが気が付き始めたのではないのでしょうか。

「働く者のよすがに」

近年、異なる民族を口汚くののしる「ヘイトスピーチ」が街頭で行われていま

「誰もがいなくなる？」

北海道出身の私にとって心配なのは、最近アイヌ民族までもがヘイトスピーチの対象に加えられたことです。伝統行事へのわずかな補助を「特権」呼ばわりするばかりか、主張がなされ、インターネット上は賛

「高年齢者特権」などと言われることも絵空事では

「経済大国」としての地位が揺らぎ、将来への漠然とした不安や、理不尽な待遇に苦しめられることが多くなりまし。自己責任論」も浸透しています。常に努力を強いられる人にとつて、「報われないのは自分の責任」と省みるのは大変過酷な作業です。そんな時に「あなたが損をし

人々が砂粒のようにばらばらに孤立化し、たたかれ

「確認バイアス」のまん延

「かやま・りか」



海外旅行のお客で きょうも大混雑

「アベノミクス」で格差を拡大し、貧困が広がる。

「確認バイアス」のまん延

「かやま・りか」

1960年生まれ。北海道出身。精神科医で、立教大学現代心理学部映像身体学科教授。「墮ちられない【私】精神科医のノートから」(文春新書)、「リベラルじゃダメですか?」(祥伝社)など著書多数。

頑張る仲間 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第92回は埼玉と山口にお届けしました。



埼玉 伊藤寿津江さん

こんにちは、久喜総合病院の伊藤寿津江（イトウスズエ）です。

9月から埼玉で書記次長を、埼玉久喜支部でも書記次長をしています。私は7年前に幸手総合病院に就職し、幸手総合は久喜に新築（増床）・移転しました。久喜総合は、開院から全病棟が稼働するまで2年6ヶ月かかり、落ち着くまで大変でした。今も半数の病棟は、看護師不足から患者数を制限しています。

現在、内科病棟勤務ですが、患者さんの殆どが高齢者です。自分の両親と同じような年齢の患者さんのお世話をしていると、頑張らないといけないなと思います。

山厚労から本田雅美・中央執行委員をご紹介します。

臨床検査技師としての本田さんは、技師としての信頼も厚く非常に頼りがいのある人柄として職場にはなくてはならない存在です。また3人の子供のお母さんでもあり家庭に仕事に執行部活動にと毎日忙しく過ごされています。これからも頑張ってくださいね!!



山口 本田雅美さん

読者の声

「小テスト」チャレンジしてみました。10問中、3問しか正解できず、自分でもびっくりです。丁寧な解答を読んで「なるほど、なるほど」です。（新潟）
毎回ニュースを楽しみにしています。今回の小テストは知らないことが多く大変勉強になりました。文章だと頭になかなか残らないのですが、クイズだと自然に身につくよう気がします。（富山）

今後皆様にお役に立てるようなものを考えていきます。（OH）
本紙を読みたくさんの方が頑張ってくれていることが分かりました。子どもや家庭を持っていると、なかなか活動に参加できませんが、出来ることから協力していきたいと思いました。（徳島）

ママさん看護師の話がありました。どこも大変です。時短の時に少し遅れると、また子供も病気で休むと「仕事が一番でしょー」と言われる。もう少し周りの人で気遣えないものでしょーか、と見て思います。（長野）

「相手が自分だったら」と考えられる余裕が欲しいですね。十分な睡眠と休養も必要です。（MT）
働きのしやすい職場づくりのコーナーを読んで、当院でも理想の病院づくりについて、職員からアイデアを募集し、良い作品には賞を与えるというのを、昨年あたりから実施しています。この記事にある中から、何か実現されたいなと思っています。これから長年働いていくには、必要なことだと思います。（秋田）

素晴らしい取り組みだと思います。どのようなアイデアがでるか楽しみです。ね。その際には、また投稿していただくとありがたいです。（OH）
クイズの形態が時折変化するので私のポケ防止に「役員」になっていると感謝しています。これからもひとひねりのクイズを頼みます。（秋田）

まさか、ポケ防止に「役員」ってなるなんて。今後、クイズだけの全厚労ニュース特別号を検討していきます。（YN）

ひつじ年クロスワード

【解き方】二重ワクの文字をA~Hの順に並べてできる言葉は、なに？ 【作/モロズミ勝】

1		2		3		4		
5	6	7	米	米	米	8	9	
10		米	米	11	12	A	13	米
	米	14		15	米	16		17
18			米	19	20	米	21	米
	米	22	23	F	24	G	米	26
28	29	米	米	30		31	32	
	33	E			米	34		

答 A B C D E F G H

- ### ワケのナギ
- 1 路樹のある商店……
 - 2 巨匠。書道の……
 - 3 オレンジ色の野菜
 - 4 便利な機械。文明の……
 - 5 75日もたてば消える？
 - 6 ウサギが餅をつく？
 - 7 地球と木星の間にある惑星
 - 8 羊頭を掲げて……を売る水・ガス・石油などの大型容器
 - 9 国道の「風神」……
 - 10 ……は金なり
 - 11 少年ジムが海賊と戦う冒険小説
 - 12 ヒツジグサとは……の別称
 - 13 羊や牛が放牧されています。静岡県中央部の昔の国名
 - 14 紅茶にそえるカンキツ類
 - 15 預金と貯金
 - 16 寝ながらズボンのしわ伸ばし
 - 17 成長した羊の肉
 - 18 ベスト……の野球チーム
 - 19 ……と人情の板ばさみ
 - 20 生後1年未満の子羊の肉をおみくじで今年の……を占い
 - 21 太鼓を打ち鳴らす棒
 - 22 寒さを……して寒げいこ
 - 23 3人よればかましい？
 - 24 専門を持つ人の趣味的な芸芸
 - 25 河童の頭に付いています
 - 26 羊は……科の動物です
 - 27 ……歯は人の犬歯のことです
 - 28 気に入らない……を装う
 - 29 大勢の前で意見を言う……大会
 - 30 マグロの脂身の部分

当選者（読者の声掲載者含む）10名様に図書カードを差し上げます。答えと本紙の感想などを添えて下記あて先へお送りください。当選の結果は発送をもって代えさせていただきます。（10月号の答え：蜜柑（みかん））